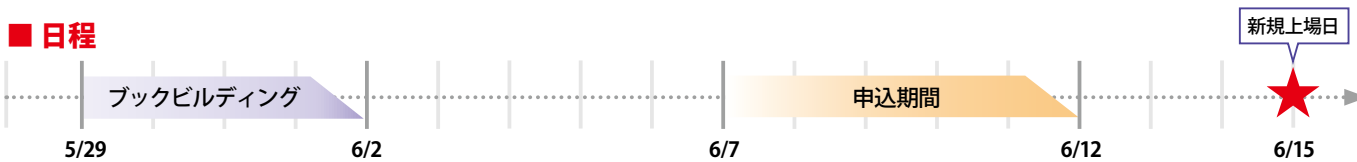


IPO銘柄 ビーブレイクシステムズ (3986・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
3986	100株	公募: 25.00万株 売出: 6.20万株 (OA3.12万株)	1,550円~1,670円 (16.9倍)	SBI証券

■ 日程



クラウドERP「MA-EYES」を提供

■ 事業内容

クラウドERP（基幹システム）「MA-EYES」のパッケージ事業と、顧客が構築するシステムの受託開発やIT人材の派遣を行うシステムインテグレーション事業が両輪。パッケージ事業のターゲットは、派遣、広告、インターネット、コンサルタントなどのサービス業で、労働集約型、プロジェクト型の企業に特化している点が特徴。こうした企業は生産性向上、「働き方」改革の必要性が高いことから、クラウドERPの需要は大きい。もう一方のシステムインテグレーション事業は、ITサービス提供会社の外部向けWebサービス提供システムや、企業向け社内システムなどの開発案件に参画し、基本的に顧客企業に常駐してシステム開発を行う。17年6月期第3四半期累計（16年7月～17年3月）の売上高構成比はパッケージ事業が46.8%、システムインテグレーション事業が53.2%。利益面ではパッケージ事業のウエートが6割程度を占めている。

■ 特徴

パッケージ事業は各業界向けパッケージをそろえているほか、自社開発した基幹業務システムの開発・稼働環境ソフトウェア「J-Fusion」を利用することで、新規業種にも簡単にERPを導入できる体制を整えている。サービスをクラウドで提供しているため、顧客のニーズに合ったカスタマイズも容易にできる。システム導入時のフロー型売上に加え、継続利用で生じるストック型売上で構成されている。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年6月期の非連結経常利益は前期比48.5%増の1億5,300万円を計画している。前期に好調だった「MA-EYES」の新規受注は一服しているものの、保守料やSaaS使用料の増加などが寄与している。収益規模はまだ小さく、利益面は伸び盛りにある。

■ 定性分析

人気のクラウド関連。IPOマーケットは4月末から1カ月半のゴールデンウィーク休暇に入っており、これが再開第1号案件となる。仮条件の上限は目論見書記載の想定発行価格1,380円を21%上回る水準に設定されており、事前人気の高さも確認されている。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は5.7億円。軽量級でベンチャーキャピタル保有株もないため、需給状況は非常に良好となっている。カレンダー的に投資家のIPOへの参戦エネルギーが充填されてこともあり、想定以上の買いを集める可能性がある。（小泉健太）

■ 類似企業

ビーブレイクシステムズ (3986・マザーズ)	予想PER16.9倍 (仮条件上限)
オロ (3983・マザーズ)	予想PER28.1倍
ノムラシステムコーポレーション (3940・JASDAQ)	予想PER31.8倍

■ 引受証券

SBI証券、SMBC日興証券、みずほ証券、岡三証券、極東証券、岩井コスモ証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年6月期(実績)	882	0.3	24	▲ 29.6	17	▲ 37.5	16.0	2.50
16年6月期(実績)	1,025	16.2	103	4.2倍	80	4.6倍	73.1	11.00
17年6月期(会社予想)	1,094	6.8	153	48.5	110	36.6	98.9	—

※ 17年3月に株式分割(1株→20株)を実施。15年6月期および16年6月期のEPS、配当は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年6月期	59,400	523	329	60	299.38	62.97	5.47
16年6月期	59,400	633	407	60	369.98	64.37	21.84

※ 15年6月期および16年6月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	白岩 次郎	622,000	46.33
2	上川 伸彦	158,400	11.80
3	高橋 明	128,400	9.56
4	鹿取 裕樹	118,400	8.82
5	ビーブレイクシステムズ	86,000	6.41
6	横井 朗	40,000	2.98
7	塩川 靖幸	33,440	2.49
8	熊田 圭一郎	30,680	2.29
9	吉田 周作	20,000	1.49
10	菅谷 順子	15,600	1.16

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	白岩 次郎
取締役(開発部長)	上川 伸彦
取締役(営業部長)	高橋 明
取締役	鹿取 裕樹
取締役(管理部長)	熊田 圭一郎
常勤監査役	菅谷 順子
監査役	伊藤 修久
監査役	本田 宗哉

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。